

## CICUTA VIROSA／サンカラシ

Cic.は Plant である。Cic.のテーマは、過去に他人とくに男性によって深く手酷く傷つけられ、子供のような状態に逆行して世界の残りを閉め出してしまっている、というものである。彼女は極端に男性を恐れ憎み疑い軽蔑する。興奮したり誰かが近づいたりすると暴力的になったり痙攣状態になったりして、特に恐ろしい事や悲しい話に影響を受ける。こういった Cic.の凄まじい感受性や反応性は、世界をシャットアウトするということもふくめて、Opium のそれを思い出させる。両者には密接な関連がある。

スイス人の仲間である Dr. Hansjorg Hee がインドに滞在している間に私に語ってくれたケースがある。8－9歳で顔に湿疹ができた子供のケースであった。その湿疹に特有な点は、ウェットな湿疹でジクジクと滲出し痂皮を形成するのに痒みがないということである。またその女の子は非常に引っ込み思案で無口であった。彼女の問題が始まる2、3年前、棺桶に生きたまま入れられて埋められた少女や天使の話とか、目覚めるとあらゆる類の怪物が彼女の周りにいて叫んでいるとかいう話を父親がしたのだった。この話は彼女にひどいショックを与え、彼女の全体的な雰囲気や性格が変化した。私は以下の事に基づいて彼女には Cic.を与えるようすすめた。

—Horrible things, sad stories affect her profoundly :

恐ろしい事や悲しい話に深く心動かされる。

—Sadness from sad stories : 悲しい話から悲しみ・鬱状態。

—Talk, indisposed to, desire to be alone, taciturn :

話しながらない。独りでいることを欲する。無口。

—Man, shuns the foolishness, of : 人の愚かしさを避ける。

—Sensitive to sad stories : 悲しい話に敏感。

—Company, aversion to, avoid the sight of people :

人を嫌う。人が見えないようにする。

—Quiet disposition : 静かな傾向。

—Dullness, sluggishness : ぼんやりとした状態。不活発。

これと併せて、“Eruptions without itching : 痒みのない発疹”というルブリクスを Phatak のレパートリーからひろった。

Dr. Hee によるとこの患者は Cic.で精神的にも身体的にも非常に改善をみたとのことである。

他のルブリクス

—Delusion, thinks he is again a child : 再び子供に戻っているという妄想。

—Answers when spoken to, yet knows no one : 話しかけられたときに答える。しかし・・・。

—Contemptuous : 人を馬鹿にしたような。

—Dancing grotesque : グロテスクな踊り。

—Delusion, everything is strange : 全てが奇妙に見えるという妄想。

—Misanthropy : 人間嫌い。

—Recognize, does not, his relatives : 家族がわからない。

—Unconsciousness, periodical : 周期的に意識がなくなる。